



増刊号（2024年4月30日発行）  
発行：四国手話通訳問題研究会（四通研）

## 四国手話講座担当講師研修会開催！

2024年3月10日（日）、徳島県立総合福祉センターで第13回手話講座担当講師研修会が開催されました。この研修会は、四国ろうあ連盟と四国手話通訳問題研究会の共催で毎年開催し、各県で手話奉仕員養成講座や手話通訳者養成講座を担当する講師及び専門学校等で手話指導を担っている講師、計60名（会員外含む）が参加しました。



午前中は全体会、午後は2つの分科会を行い、それぞれにおいて幅広い討議が行われました。このあと、それぞれの概要を報告します。

### 【全体会】二人で話そう「よりよい手話講座担当指導講師を目指して」

四国四県60人の講師が集結し、手話奉仕員養成テキスト作業部会の杉下多恵子氏より、改定テキスト編集にあたっての方針、概要が説明されました。

「手話は言語である」との認識のもと、現状に合わせた内容にすること、手話単語は標準手話、地域の手話は講師から学ぶことで統一されました。映像教材はインターネット利用の「クラウド教材」とし、講師が動画を見て、地域の表現を交え、実践的に、効果的に指導することを目的としています。また、受講生が自宅で予習、復習として気軽に見られる動画教材となっています。講師は、テキストの「コラム」を必ず使って指導するようにしてほしい。聞こえる講師は極力読み取らず、受講生の様子を確認し、受講生とろう講師を繋ぐ役割を担うよう説明されました。



受講生は手話と日本語の文法の違いを知り、繰り返し学びながらろう者の手話を読み取る力を習得するとともに、講習会を受講するだけでなく、学習会、交流会に参加、見学して学ぶことを求めています。

最後に、講師は互いの講習会を見学し、講師団で学習し合うなど、共に成長することをめざしてくださいと締めくくられました。

**【第1分科会：手話奉仕員養成】（担当：徳島）**

各地で講座を担当しているなかでの困りごとなどについて意見を出し合いました。例えば、音声があると手話を見落とすので、聞こえる講師は声を出さないでほしい、ろう者はクラウド教材の操作が苦手なので聞こえる講師に操作をお願いしたいといった内容です。また、受講生がネイルや装飾品を付けたり派手と思える衣装を着用したりしているときにどうしたらよいかという声が出ました。

これらの実態を受け、手話を学ぶ仲間として多様性を受けとめる必要があることと、変化を受けとめつつどうやってろう者に必要とされる奉仕員や通訳者を目指すべきか、受講生に考えてもらえるようにする必要があるといった意見がありました。

時間が足りなくなるほど多くの意見が出て、互いに考えさせられる充実した分科会になりました。

**【第2分科会：手話通訳者養成】（担当：高知）**

今年の進行は高知が担当しました。参加者は香川2名、徳島3名、高知3名です。講座を担当していて、困ったことや工夫していることを出し合いました。

（主な内容）

- 「標準手話と地域の手話」が違う場合は、どちらも大切な手話であることを丁寧に説明する。
- 読み取り通訳練習をする時のろう講師への情報保障については、手話通訳をつけたり、受講者がグループになり、読み取りを文字に起こして確認したりしている。
- 受講者が手話表現をしているとき、「わかならい」と言わず、受講者にその表現が意図することを確認し、自分自身で表現を工夫できるように支援している。

これらの意見をもとに、今後の指導につなげていきたいと考えます。



2024年度の講師研修会は、2025年3月に開催予定です。日時等が決まりましたら、支部を通じてお知らせします。次回も多くの皆様のご参加をお願いします。